

編 集 後 記

表紙のデザインを一新してからの第二号をお届けする。本号では、環境管理センターの役割の拡大に伴うかのように内容は多岐にわたるものとなった。総説として「環境保全と生物農薬 - 微生物農薬による害虫対策-」及び「生活環境を修復する常識への挑戦 - 農薬と肥料の役割を演じるアイガモ達」の二つをはじめ、住宅メーカーの環境問題への取り組みに関する解説の他、環境汚染の新規計測法やポリマー生分解に関する新しい知見、学内で稼働しているリサイクルシステムなど学術論文3編及び10年間の長期にわたり岡山大学周辺を流れる座主川の水質について調査した結果をまとめた技術報告1編をご寄稿いただいた。

今後もこのように広く環境に関する多岐にわたる研究、技術動向等を本誌により提供できればさいわいと考える。

また、環境管理センターからのご報告として、昨年より取り組んでいた環境マネジメントシステムISO14001取得に関するご報告及び有機廃液部門の外部委託することに伴う廃液管理システムの変更点などについても報告させていただいた。

環境管理センターの役割の拡大と共に、本誌への解説、学術論文への投稿がさらに増え、名実ともに「環境制御」に関する専門誌となることを期待したい。

御船 正樹